



やさシティ、まつど。
matsudo

松戸市報道資料
令和8年8月18日

松戸市戸定歴史館 企画展 「タイムスリップ・トラベル —徳川昭武が旅した明治—」

とくがわあきたけ
徳川昭武は、旅行を趣味の一つにしており、行く先々で旅行日記を書き残しました。日記には、昭武が見聞きした景色や情報、ときに感想が記されます。また、明治36年(1903)7月から写真撮影を本格的に始めてからは、カメラを旅行先に持参して各地で撮影を楽しみました。

本展では、主に昭武の日記と写真から、明治3年(1870)の北海道、明治7年(1874)の日光・四万・伊香保・富岡、明治27年(1894)の広島、明治36年(1903)の京都・大阪・兵庫、明治38・41・42年(1905・08・09)の沼津の各旅行をご紹介します。

戸定歴史館展示室で明治時代にタイムスリップして、昭武とともに旅行しているような気分をお楽しみください。

●会 期

令和8年9月19日(土)～令和9年1月11日(月・祝)

※休館日 月曜日(祝日の場合は開館し翌平日休館)

※期間中、展示替えを行います。

(前期：～11月15日(日)、後期：11月17日(火)～)

※作品の状態により、展示内容が変更になる可能性があります。

●場 所

松戸市戸定歴史館 展示室



やさシティ、まつど。
matsudo

●展 示 数

約100点（予定、展示入れ替え分を含めた点数）うち約50点が初公開

●展 示 構 成

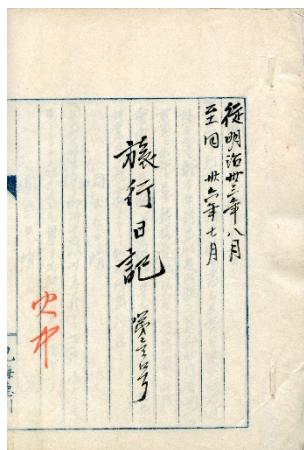
第一章 徳川昭武旅行日記 ―旅行之途ニ就ク―

第二章 京坂地方旅行 ―名勝・霊地ヲ探ル―

第三章 沼津旅行 ―水泳出精致居候―

第四章 広島大本営 ―天機伺之為メ―

●展示予定品



「旅行日記 第壹号」 明治 33 年－明治 36 年（1900－1903 年） 徳川昭武作成

徳川昭武が旅行先の見聞きした情報などを記した旅行日記。明治 36 年（1903）の京都・大阪・兵庫旅行の記述は本日記に含まれる。



左：「舞子有栖川宮邸ヨリ遠望」 明治 36 年（1903）7 月 18 日 徳川昭武撮影 6.2×9.5

右：現況

明治 36 年 7 月 18 日、昭武は舞子（現兵庫県神戸市）の有栖川宮威仁親王別邸を訪問した。昭武はここから淡路島を撮影している。同地は現在シーサイドホテル舞子ビラ神戸となっており、淡路島を望むと明石海峡大橋が眼前に広がる。



やさシティ、まつど。
matsudo



左：「三十三間堂」 明治36年（1903）7月24日 徳川昭武撮影 6.7×9.8

右：現況

昭武は、明治36年7月22日から同26日にかけて京都の寺社や名勝を巡った。昭武が撮影した三十三間堂と現況を見比べると、昭武が見た姿とほとんど変わらないことがわかる。



左：徳川昭武写真絵葉書（徳川秋庭宛） 明治41年（1908）8月21日 8.7×13.8

右：現況

沼津の静浦保養館から母の秋庭に宛てた、徳川昭武の写真絵葉書。被写体は布島で頂上に魚見櫓が確認できる。当時は砂浜に続く島であったが、現在は防潮堤に接続している。

※寸法はすべて縦cm×横cm



やさシティ、まつど。
matsudo

●施設概要

住 所 松戸市松戸 7 | 4 - 1

入館時間 9時30分～16時30分（17時閉館）

休 館 日 月曜日（休館となる日が祝日にあたるときは翌平日休館）

入 館 料 一般150円、高校・大学生100円

※戸定歴史館との共通入館券は一般320円、高大生160円

※中学生以下無料

※障がい者手帳をお持ちの方と同行者1名無料

※20名以上の団体、市内在住の70歳以上の方は団体割引料金適用

電話番号 047-362-2050（戸定歴史館）



■戸定邸とは…明治時代の徳川家の住まいがほぼ完全に残る全国で唯一の建物です。建物は国の重要文化財、旧徳川昭武庭園（戸定邸庭園）は国の名勝に指定されています。



■戸定歴史館とは…戸定邸を建てた徳川昭武と松戸徳川家に関する資料を収集・保存・調査研究・公開する歴史博物館。平成3年（1991年）開館。登録博物館。展示は年3回の入替制。

【本件に関する問い合わせ先】

〒271-0092 千葉県松戸市松戸 7 | 4 - 1

松戸市教育委員会 生涯学習部 文化財保存活用課 戸定歴史館

☎047-362-2050 FAX047-361-0056

✉ mctojourekishi@city.matsudo.chiba.jp